

国立大学法人東京農工大学

科学博物館ニュース速報

No.1 June 1, 2012

第1号 2012年6月1日

館長就任挨拶

梅田倫弘

今年度より、科学博物館の館長になりました工学府の梅田です。2008年に前身の工学部附属繊維博物館から、全学組織に生まれ変わるときに、守備範囲を工学と農学の全分野に広げることをビジョンとして科学博物館と改名しました。とは言っても、これまで収蔵展示してきた浮世絵、繭、繊維機械などの多くは、我が国の博物館では希少性が高く、注目されています。したがって、現在のステータスを生かしつつ本学の科学技術系大学院大学としてのポジションを補強するための一助となるように、スタッフならびに運営委員、両地区博物館委員のみなさんと力を合わせて邁進したいと思っています。

豊田前館長が策定されました4つの博物館ビジョンが、活動方針の大きな柱となっておりますが、今年度の重要な施策の一つが、博物館のリニューアルオープンの実現と年間入館者数35,000人のコミットメント実現のための様々な活動の展開です。これらは相互に強く関連しています。

現在、博物館は耐震改修と機能改善のための工事を行っており、5月末に本館工事が完工します。その後、展示収蔵品の搬入、展示室や展示説明等の整備作業を行って、10月2日にリニューアル記念式を挙行し、10月3日より一般観覧を開始します。一方、35,000人コミットメントは、耐震改修の予算要求の際に数値目標として掲げた数字で、従来の年間入館者数に比べて約三倍を達成する必要があります。そのため、様々な広報活動や魅力ある収蔵品の展示、そして特別展などの企画を検討中です。

35,000人コミットメントは実現容易な数字ではないかもしれませんが、これまでの博物館にはなかった新しい企画や広報戦略によって実現するように努力したいと思います。その結果とし

て、本学の広報活動の推進に繋がることと信じています。そのため、「先ず隗より始めよ」という中国の故事成語にもありますように、学内の教職員の方々に新生科学博物館をご理解していただくことが、第一歩と考え、このニュース速報を発行することになりました。博物館の様々な情報を定期的にお届けしますのでご一読いただいて、リニューアルオープンしましたら、ぜひお越し下さい。



副館長就任挨拶

田中治夫

このたび、副館長に就任することになりました農学研究院の田中です。よろしくお願ひ申し上げます。

府中キャンパスには、科学博物館の分館である、近代農学資料展示室と近代農機具展示室があります。しかし、学祭期間中のみ開館され、通常は一般公開されていません。また、私どもの土壌学研究室には、わが国産出の岩石・鉱物をほぼ網羅した総点数630点余の黒部隆名誉教授「岩石・鉱物標本コレクション」が死蔵されています。これ以外にも府中キャンパスにはさまざまな価値ある学術資料や歴史資料が眠っているものと思われます。博物館として、今後、これらの遺産をどの様に活用していくか。皆様の一層のご支援・ご協力をお願いいたします。

科学博物館本館

リニューアルについて

科学博物館本館は10月2日のリニューアルオープンに向け、現在急ピッチで工事が進んでおります。今回は一足早く、新しい博物館の展示を簡単にご紹介いたします。

まず1階西側に大学の「現在」を伝える企画展示室と教育・研究展示室を設けました。企画展示室では、大学の重要な研究や話題のプロジェクト等からテーマを選定し、定期的に企画展示を開催いたします。大学博物館としての目玉展示として、農工大の成果を一般社会へ発信していきたいと考えています。続く教育・研究展示室は、各学科の研究紹介ブースです。農工大で現在行われている最新の研究を分かりやすく展示することで、受験生をはじめ一般市民と大学を繋ぐパイプの役割を担います。

2階には農工大の「歴史」を伝える展示室を配置しています。繊維博物館から受け継いだ繊維関連の展示や蚕織錦絵・生糸商標のコレクション展示の他、内務省勸業寮内藤新宿出張所から始まる農工大の歴史を紹介する学史展示と現在注目が集まる遠藤章特別名誉教授の業績展示を新たに加えました。また当館友の会サークルによる実演ブースを設け、いつでもお気軽にご覧いただけます。



完成間近の科学博物館エントランスホール

最後に1階東側の機械展示では、明治以降の大型の繊維機械を全て動かせる状態で展示しております。定期的に行われる当館ボランティア繊維機械研究会による動態展示は必見です。

皆様のご来館を、心よりお待ちしております。

(博物館特任助教・高木愛子)



この展示に注目 ① 「シャルドンネ人絹」

科学博物館には、本学の前身である東京高等蚕糸学校の時代より継続的に蒐集された約13,000点もの学術資料が収蔵されています。ここでは、博物館の貴重なコレクションを毎回1点ずつ紹介します。

今回は、世界で最初の人工繊維として知られる「シャルドンネ人絹」です。



シャルドンネ人絹 (科学博物館蔵)

この繊維は、化学繊維の原点とも言える、人類初のセルロースによる再生繊維であり、世界的にも珍しい資料であると言えます。

絹糸をはじめとする天然繊維を人の手で作製するという考え方は、17世紀ごろから始まりました。フランスの昆虫学者、レオミュール(René Antoine Ferchault de Réaumu, 1683-1757年)は、1734年の書著の中で、「蚕糸は液状ゴムの乾燥物と見做すべきである。従ってゴム、樹脂、漆の類から人造絹糸は生産し得るのであろう」と予言しています。この予言から実に150年後の1885年、フランスの工学者である、シャルドンネ(Hilaire de Chardonnet, 1839-1924年)により、人造絹糸の生産は実現しました。Ecole Polytechnique (パリ理工学校)に入学したシャルドンネは、細菌学者パスツールの指導で蚕の微生物についての研究に携わりました。この時の蚕の生態研究を通じて、シャルドンネは、蚕が植物(桑の葉)を食し、絹織

維を生産する過程から、繊維の作製に木材を使用するアイデアを得ました。1885年、「硝酸セルロースのエーテル/アルコール混合液を水で凝固し、延伸して人造繊維を作る」という方法のフランス特許を取得したシャルドンネは、4年後の1889年に開催されたパリ万国博覧会において、人類初の人工繊維「シャルドンネ人絹」を作製機械とともに出品し、世界を驚かせました。その後、シャルドンネは工程の改良を進め、大量生産に踏み出しましたが、原料に含まれるニトロ基を完全に除去することができず、極めて引火性の高い繊維となっていました。「人絹で作製したドレスが火だるまに」などのトラブルも発生し、1900年代初頭までに、シャルドンネ人絹の生産は終了しています。

科学博物館では、このシャルドンネ人絹を一般公開しています。本学博物館の収蔵品の中でも極めて貴重かつ繊維産業史において重要な資料であると言えます。また、シャルドンネ人絹をはじめ、科学博物館が収蔵する昭和初期のレーヨン繊維に関しては、分光学的調査を開始しており、関連学会での発表を予定しています。また今後、それらの成果も含め、展示する予定です。

科学博物館にお越しの際は、人類の繊維開発における歴史に重要な第一歩を踏み出したシャルドンネ人絹を是非ご覧下さい。

(博物館助教・中澤靖元)



学芸員課程通信①

平成24年4月より、博物館法施行規則の改正に伴う学芸員課程の改正が行われました。従来の学芸員課程では、8科目12単位の関係科目を履修することで資格を取得することができましたが、今年度入学生から、9科目19単位の履修が義務づけられます。本学学芸員課程では、このカリキュラム改正に対応し、今年度からも継続して課程を開講することと致しました。

新規学芸員課程カリキュラム

科目名	単位数	時間数
博物館概論	2	30
博物館資料論	2	30
博物館展示論	2	30
博物館資料保存論	2	30
博物館経営論	2	30
博物館情報・メディア論	2	30
博物館教育論	2	30
生涯学習概論	2	30
博物館実習	3	80
合計	19	320

一般的な学芸員養成課程は、人文系博物館を想定して科目が設定されており、大部分が文系大学で開講されています。よって、本学のように理系大学における学芸員課程は希有であるといえます。また、学芸員資格を取得しても就職に結びつかない等の問題点も指摘される中、本学の特色を活かした形で改善を行い、学芸員教育のさらなる充実を図りました。

本学学芸員課程では、基本的な学芸員としての素養を身につけると同時に、科学的な観点から博物館運営に携わることのできる「保存担当学芸員」の養成を主眼に置いたカリキュラムの構築を試みております。本年度から必修となった「博物館資料保存論」については、本学では以前より選択必修科目として設定しており、また、博物館実習では、科学博物館を十分に活用した、展示実習の他、保存科学的実習を取り入れることで、「博物館資料保存のスペシャリスト」の養成を目指します。

事実、近年の博物館・美術館の雇用傾向として、科学的知識を有した学芸員が必要とされはじめています。このような要請に対し、本学学芸員課程は、理系学生の特徴を十分に発揮した人材育成を行い、将来的には、1人でも多くの学芸員が本課程から誕生することを目標として、今後も課程改善に取り組んで参ります。

(博物館助教・中澤靖元)

博物館活動日誌



◆本館施設移設作業開始

(6月21日～6月30日)

博物館本館の耐震改修・機能改善工事が終了し、資料・物品の移設作業が行われます。移設作業時には大型トラックやクレーン車を使用します。ご迷惑をお掛けしますが、よろしくお願いいたします。

◆10月2日リニューアル記念式

リニューアル記念式では、学内教職員および学生のご参加をお待ちしております。詳細については、後日お知らせ致します。

「科学博物館ニュース速報」第1号

◆発行日 2012年6月1日

◆編集 博物館ニュース編集委員会

梅田倫弘・中澤靖元・高木愛子

◆発行 東京農工大学科学博物館